

食肉等のカンピロバクター汚染状況報告

資料4

報告年	報告者	検体		季節	検体数	陽性数	%	備考	検査法	
1982	松崎静枝ら	鶏肉			34	14	41.2	C.jejuni/ coli	遠心法	A
		牛肉			33	0	0		遠心法	
		豚肉			33	0	0		遠心法	
		鶏	腸内容		199	179	89.9	C.jejuni/ coli	遠心法	
1982	斎藤香彦ら	鶏肉		2月	25	20	80	C.jejuni	直接 / 増菌	B
		鶏肉		6月	25	6	24	C.jejuni	直接 / 増菌	
		鶏	内臓	2月	10	9	90	C.jejuni	直接 / 増菌	
		鶏	内臓	6月	10	0	0		直接 / 増菌	
		鶏	腸内容	2月	18	1	5.6	C.jejuni	直接 / 増菌	
		鶏	腸内容	6月	18	5	27.8	C.jejuni	直接 / 増菌	
1985	伊藤武ら	ひよこ	腸内容		26	0	0		直接培養法	C
		若鶏	腸内容		39	1	2.6	C.jejuni/ coli	直接培養法	
		ブロイラー	腸内容		46	13	28.3	C.jejuni/ coli	直接培養法	
		廃鶏	腸内容		341	105	30.8	C.jejuni/ coli	直接培養法	
		鶏舎内の水			34	7	20.6	C.jejuni/ coli	直接培養法	
1985	東京都食品衛生調査会	牛肉		夏	108	1	0.9	C.jejuni/ coli	直接 / 増菌	D
		牛肉		冬	90	0	0		直接 / 増菌	
		豚肉		夏	95	0	0		直接 / 増菌	
		豚肉		冬	125	0	0		直接 / 増菌	
		鶏肉		夏	43	5	11.6	C.jejuni/ coli	直接 / 増菌	
		鶏肉		冬	58	21	36.2	C.jejuni/ coli	直接 / 増菌	
		羊肉		夏	8	0	0		直接 / 増菌	
		鶏肉洗浄中の水		夏	1	1	100	C.jejuni/ coli	直接 / 増菌	
		牛	内蔵	夏	16	0	0		直接 / 増菌	
		牛	内蔵	冬	11	0	0		直接 / 増菌	
		豚	内臓	夏	12	0	0		直接 / 増菌	
		豚	内臓	冬	9	0	0		直接 / 増菌	
		鶏	内臓	夏	32	7	21.9	C.jejuni/ coli	直接 / 増菌	
		鶏	内臓	冬	31	10	32.3	C.jejuni/ coli	直接 / 増菌	
		国内牛	腸内容	夏	84	8	9.5	C.jejuni/ coli	直接 / 増菌	
		国内牛	腸内容	冬	51	19	37.3	C.jejuni/ coli	直接 / 増菌	
		輸入牛	腸内容	夏	109	24	22	C.jejuni/ coli	直接 / 増菌	

報告年	報告者	検体		季節	検体数	陽性数	%	備考	検査法		
		輸入牛	腸内容	冬	50	13	26	C.jejuni/coli	直接 / 増菌		
		豚	腸内容	夏	152	50	32.9	主にC.coli	直接 / 増菌		
		豚	腸内容	冬	112	91	81.3	主にC.coli	直接 / 増菌		
		鶏	腸内容	夏	90	29	32.2	C.jejuni/coli	直接 / 増菌		
		鶏	便	夏	100	79	79	C.jejuni/coli	直接 / 増菌		
		ペット犬	腸内容	夏	82	11	13.4	C.jejuni/coli	直接 / 増菌		
		ペット犬	腸内容	冬	29	4	13.8	C.jejuni/coli	直接 / 増菌		
		ペット猫	腸内容	夏	70	0	0		直接 / 増菌		
		ペット猫	腸内容	冬	50	0	0		直接 / 増菌		
		淡水魚(ニジマス)		夏	160	0	0		直接 / 増菌		
		淡水魚(ニジマス)		冬	33	0	0		直接 / 増菌		
		淡水魚(コイ)		夏	20	0	0		直接 / 増菌		
		淡水魚(コイ)		冬	20	0	0		直接 / 増菌		
2001	都衛研・中野HC合同調査	鶏肉			32	24	75	C.jejuni	直接 / 増菌		E
						2	6.3	C.coli	直接 / 増菌		
		鶏	内臓肉		5	5	100	C.jejuni	直接 / 増菌		
						1	20	C.coli	直接 / 増菌		
		鶏	拭き取り		163	51	31.3	C.jejuni	直接 / 増菌		
						2	1.2	C.coli	直接 / 増菌		
		鶏	と体洗浄水		4	2	50	C.jejuni	直接 / 増菌		
		鶏	腸内容物		85	52	61.2	C.jejuni	直接 / 増菌		
						15	17.6	C.coli	直接 / 増菌		
2001	沓木ら(全国食肉衛生検査所)	牛	肝臓		486	60	12.3		増菌培養		F
			胆汁		1254	437	34.8		増菌培養		
2002	東京都先行調査	鶏肉	もも		31	23	74	C.jejuni	大量培養法		G
		鶏肉	むね		48	29	60	C.jejuni	大量培養法		
		鶏肉	手羽元		4	2	50	C.jejuni	大量培養法		
		鶏肉	ささみ		27	13	48	C.jejuni	大量培養法		
		鶏肉	輸入もも肉		4	0	0		大量培養法		
		鶏	肝臓		48	40	83	C.jejuni	大量培養法		
		鶏	すなぎも		48	41	85	C.jejuni	大量培養法		
2002	小野一晃ら	鶏	レバー		56	46	82.1		大量培養法		H
2002	安藤陽子ら	鶏	レバー		56	29	51.8		大量培養法		I
		鶏	砂肝		9	6	66.7		大量培養法		

報告年	報告者	検体		季節	検体数	陽性数	%	備考	検査法	
		鶏肉			9	6	66.7		大量培養法	
2002	小笠原美果ら	鶏	便		39	25	64.1		遠心法	J
		鶏肉			51	38	74.5		遠心法	
2002	川森文彦ら	犬	便		110	2	1.8	C.jejuni	大量培養法	K
		猫	便		40	0	0		大量培養法	
		ドバト			75	22	29.3	C.jejuni	大量培養法	
		野生カモ			20	3	15	C.jejuni	大量培養法	
		カット鶏肉			24	18	75	C.jejuni/coli	大量培養法	
		市販鶏肉			30	19	63.3	C.jejuni/coli	大量培養法	
		鶏	レバー		13	6	46.2	C.jejuni/coli	大量培養法	
		鶏筋胃			12	6	50	C.jejuni/coli	大量培養法	
		豚	レバー		12	3	25	C.jejuni/coli	大量培養法	
		豚	生モツ		2	2	100	C.coli	大量培養法	
		牛	レバー		3	0	0		大量培養法	
		牛	生モツ		2	2	100	C.jejuni	大量培養法	
2002	小野一晃	と体拭取り	懸鳥後		12	10	83.3		大量培養法	L
		と体拭取り	湯漬後		12	5	41.7		大量培養法	
		と体拭取り	脱羽後		12	12	100		大量培養法	
		と体拭取り	掛け換え後		12	12	100		大量培養法	
		と体拭取り	内臓摘出後		12	10	83.3		大量培養法	
		と体拭取り	洗浄後		12	8	66.7		大量培養法	
		と体拭取り	冷却後		12	1	8.3		大量培養法	
		鶏肉	ささみ		9	1	11.1		大量培養法	
		鶏肉	胸肉		9	7	77.8		大量培養法	
		鶏肉	もも肉		9	8	88.9		大量培養法	
		鶏肉	手羽元		9	8	88.9		大量培養法	
		鶏肉	手羽先		9	9	100		大量培養法	
		鶏	肝臓		9	5	55.6		大量培養法	
2003	小野一晃ら	国産鶏肉(冷蔵)			50	48	96		大量培養法	M
		輸入鶏肉(凍結)			100	16	16		大量培養法	

検査法の概略

	報告年	報告者	供試量	分離平板	増菌	遠心法	方法
A	1982	松崎ら	50g	Skirrow	×	○	50gに200ml ブルセラブ Ross を加え スマッカ-処理後, 遠心して集菌。塗沫。
B	1982	斉藤ら	25g	Skirrow	CEM	×	25gに10ml PBSで揉み出し, 平板に塗沫。0.5mlをCEM10mlに入れ増菌。
C	1985	伊藤ら	腸内容	Skirrow	×	×	
D	1985	調査会	25g	Skirrow	CEM	×	25gに10ml PBSで揉み出し, 平板に塗沫。0.5mlをCEM10mlに入れ増菌。
E	2001	都衛研	表面拭き取り	CCDA	Preston	×	約0.5mlをPreston10mlに入れ増菌。
F	2001	沓木		Skirrow, Butzler	Preston	×	
G	2002	都先行調査	100g	CCDA	Preston	×	100gに20ml PBSで揉み出し, 平板に塗沫。0.5mlをPreston10mlに入れ増菌。
H	2002	小野ら	25g	CCDA	Preston	×	25gに100ml Prestonを加え スマッカ-処理後, 平板に塗沫。残りを増菌。
I	2002	安藤ら	10g	CCDA	Preston	×	10gに90ml Prestonを加え増菌後, 平板に塗沫。
J	2002	小笠原ら	25g	CCDA	Preston	○	25gに100ml生食を加え スマッカ-処理後遠心し, 平板に塗沫。残りをPrestonで増菌。
K	2002	川森ら	25g	CCDA	Preston	×	25gに100ml Prestonを加え スマッカ-処理後, 増菌培養。
L	2002	小野ら		CCDA	Preston	×	検体に10倍量になるようにPrestonを加え増菌培養。
M	2003	小野ら	25g	CCDA	Preston	×	25gに100ml Prestonを加え スマッカ-処理後, 増菌培養。